

「 門脈ガスの予後因子および治療方針に関する研究 」 へのご協力をお願い

この度 神奈川県立こども医療センター 外科では 「門脈ガスと診断された患者様」を対象に「検査、治療と、その後の経過」についての観察研究を行っております。この研究は将来同様の診断をされた患者様の方針の決定に役に立つと考えております。

研究課題名	門脈ガスの予後因子および治療方針に関する研究
研究の対象	2012年1月から2019年12月までに当院で門脈ガスの診断を行った患者様。
研究の目的・方法 (試料・情報の利用目的及び利用方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的 門脈ガスとは肝臓に流入する血管の1つである門脈の中に、ガスが流入する状態です。壊死性腸炎や腸管壊死の兆候として知られています。従来は致死率 30-75%と高い事から手術適応とすべき兆候とされてきましたが、近年手術ではない保存的な治療で改善が期待できる良性門脈ガスとも呼べる一群が報告されるようになってきました。しかし報告はまだ少なく、予後因子や治療方針は確立していません。当院での経験を検討し、予後因子および治療方針などを提示する事を目的と致します。</li> <li>・方法 診療記録や画像所見を振り返り検討します。</li> </ul>
研究期間	2022年10月から2027年12月
研究に使用する試料・情報の種類	診療録、手術記録から年齢、性別、基礎疾患、症状、病名、全身状態、画像（超音波、CT）所見、術中所見、手術術式、病理診断、経過、合併症、転帰などの情報を収集します。
研究実施機関（研究組織）	神奈川県立こども医療センター
外部への試料・情報の提供とその方法	本研究では院内のみの使用で、外部に試料・情報の提供はありません。
情報の管理について責任を有する者・所属	臼井 秀仁・外科

本研究はヘルシンキ宣言（2013年10月WMAフォルタレザ総会での修正版）及び人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（2021年6月30日施行）に従って実施され、患者さんの個人が特定できる情報とは切り離れたうえで使用するため、個人情報外部に漏れることはありませんし、プライバシーには十分に配慮して行います。

また、研究の成果は関係の学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できることはありません。

開示すべき利益相反はありません。

本研究の対象となる患者さんでご自身やお子さんの情報は利用しないしてほしい等のご要望がございましたら、下記連絡先までご連絡ください。研究データからお子さんの情報を削除いたします。その場合も診療において不利益を被ることはありません。

尚、公表後は情報の削除ができないことをご了承ください。

本研究についてお尋ねになりたいことがございましたら下記連絡先にお問い合わせください。個人情報等に支障のない範囲で研究計画書を閲覧することもできますのでお申し出ください。また、苦情等の相談窓口はこども医療センター総務課倫理委員会事務局です。

連絡先 研究責任者 地方独立行政法人神奈川県立病院機構  
神奈川県立こども医療センター  
外科 臼井 秀仁  
Tel : 045-711-2351 内線 2212

相談窓口 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構  
神奈川県立こども医療センター  
総務課 倫理委員会事務局  
Tel : 045-711-2351 内線 2212